



集中豪雨災害特集号

集中豪雨

町有史以来の被害

去る8月9日未明、県東部県境地帯を襲った集中豪雨は、当朝日町において、同日午前零時から同4時まで、200ミリを越すほどの雨量を記録し、早朝のピークには正に1時間に100ミリ近い降雨量を記録した。

これは、昭和40年夏の水害時の2倍以上にのぼる降水雨であるといわれているが、この豪雨のため、町内山間部においては数10カ所にわたって山崩れを起こし、勢い、これがいわゆる鉄砲水となって中小河川に集中し、たちまちにははんらん、道路や堤防の欠壊、民家倒壊流失、床上浸水、水田流失、冠水等その他これらに付随する各種の損害が発生し、当町有史以来の被害を出すに至った。

被害の最も著しかった境地区

特に今回の水害は境地区が最もひどく、境地区内を流れる金剛川は、昭和36年にもはんらんし、浸水騒ぎを起こしたが、今回は山崩れによって押し流された岩石や、巨木の樹根などが、金剛川や他の2小河川をせき止め、あふれ出る土砂や流木が激流となって境地区内全域に流出し、同地区内を縦断する国道8号線を一きよに埋めつくしてしまった。

一方、山を背に立ち並ぶ住宅は、土砂が濁流となって家屋内を通り抜け、反対側の家並みを通り抜けて、海側の水田に流出するという惨状であった。

また、境小学校は、背後の山から滝のように流出する土砂によって宿直室が倒壊し、校舎内は濁流の洗うに任せる状態であった。

笹川地区の惨状

また、地すべり危険地帯を抱える笹川地区では、鉄砲水によって道路、堤防が各所で欠壊しはじめると共に、各所に小規模な山崩れが併発し、一部では高さ20メートル、幅10メートルに及ぶ山崩れが起き、一瞬にして人家3戸を土砂の中に埋めてしまう

といった惨事も発生し、全部落民を恐怖におとし入れたが、死者や重傷者のなかったのは不幸中の幸いであった。

国道8号線、北陸本線のストップ

交通関係では、国道8号線が城山トンネル入口と境地区で不通となり、北陸線では、宮崎トンネル西側の山崩れのため、大量の土砂や立木が線路及び旧国道を埋没して不通となり、交通関係は完全にマヒするに至った。

復旧に立ち上る被災者たち

当日昼近く、ようやく雨も小止みとなり、町においては、早速災害対策本部を設け、県に対し災害救助法の適用を要請し、その発動を受け、救援、防疫、復旧対策等に万全を期すべく、関係全職員を動員し活動を開始した。

陸上自衛隊の活躍

一方陸上自衛隊10師団金沢連隊に属する223名の施設隊員が、朝日町災害復旧救援のため、9日夕刻朝日町に到着、10日から主力を境地区におき、機動力を利用して、国道8号線の土砂排出作業を開始し、着々と復旧作業を進めた。なお、11日再び豪雨の襲来を受け、被災者達を不安におののかせ、舟川、山合川の欠壊による水田流失や家屋浸水を加えるにいたった。

被害総額約16億円

今回の豪雨による被害額は、その調査が進むにつれ拡大しているが、現在、概算総額15億6,300万円の巨額にのぼるものと予想されている。

なお、本号は集中豪雨による被害状況特集号として、町内各地の惨状を写真により紹介することにした。

(編集委員 間部善治)

(標題写真は山崩れで押しつぶされた民家一笹川地区)

豪雨のつめ跡

鉄砲水の恐怖

去る八月九日、午前零時頃から沛然として降り出した雨は、さながらバケツであけるような勢いで屋根や地上を叩きつけ、早朝をピークとして断続的に降り続いた。

八月一日以降、まるで梅雨期に戻ったような天候で、山間部の土地は充分に雨を吸ってゆるんでいる矢先、これにはく車をかけるように襲った豪雨は、勢い、鉄砲水となつて山崩を伴いながら、河川や低地部へ流出し町内各地に大きな被害をもたらす結果となつた。

古老の言によれば、町有史以来の豪雨禍であるといわれているが、この原因は、例年ならば猛暑の時期であるべき筈なのに、カムチャッカ半島上空に、どっかり腰をすえた異常な寒気団のなせるわざであると、その筋で発表しているが、このようなこともまた、観測史上でも珍らしい現象であるという。

いすれにしても、天災とあつさり片づけてしまふ前に、このような災害を、避け、防ぐ方法を百年の大計の中に織り込み、再びその軌に踏み入れないよう、対策を樹立したい

ものである。

以下、今回の豪雨による被害状況のいくつかをスクラップして紹介し、その特集とした。

境地区

境地区全域を土砂と泥水で覆つた金剛川のはんらん

大岩石が座敷の中にくらがり、土砂が天井まで埋めつくす金剛川隣接の民家。

裏山が、さながらナイヤガラのようになつて山崩れをひきおこし、境小学校の宿直室を押しつぶ



す。

危うく十分前に脱出して警戒態勢に入つたため難を免がれたという水野校長の談。

写真は押しつぶされた境小学校宿直室



「濁流の荒れ狂う水路と化した境小学校の廊下」

一瞬にして濁流の渦巻く水路と化した境小学校の階下北側廊下。(写真右)

水のひいた直後の惨状、

机、いすその他の器物備品類が泥土にまみれ各所に散乱し、激しかった当時の模様を如実に物語っている。

復旧作業に立ち上がる罹災者と自衛隊施設部隊の活躍

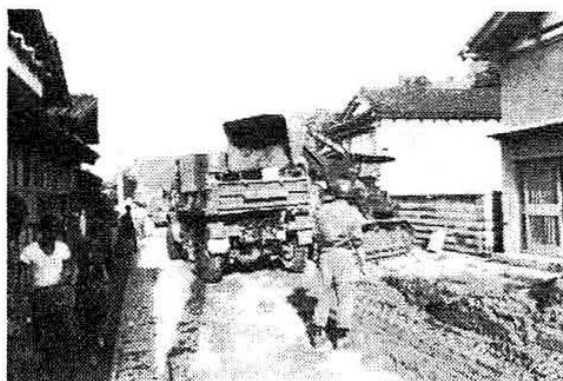
天井まで積もった土砂、泥にまみれた家財道具に、一時はぼう然自失の態であった罹災者たちも、知事の要請によって派遣された金

沢陸上自衛隊施設部隊の救援作業に力づけられ、時おり薄日のさす空に我をとりもどし、一せいに復旧作業にとりかかった。

写真は国道八号線上に

うす高く堆積した土砂の排出作業に機動力を発揮

して活躍する自衛隊員



防疫班の活動

水害の発生地には必ずと言ってよいほど、伝染病発生はつきもの。

町災害対策本部では黒部保健所と協力、早速防疫班を編成し、境地区を初めとして罹災各地の消毒に活躍防疫に万全を期した。

写真右下は境地区の罹災直後における防疫班活動

救援物資の輸送

朝日町災害対策本部では、早速罹災者達へ救援物資を支給するため、寝具、日用雑貨、薬品等を急ぎ調達を図り、被災各地へ急送し、その応急対策に遺憾なきを期した。写真は被災地において救援物資を配分する対策本部員の活動



笹川地区

各所に山崩れの発生と

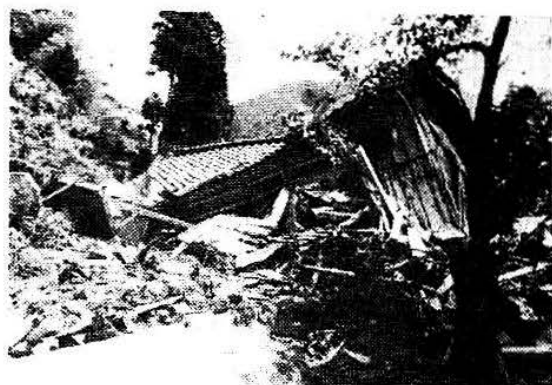
……笹川のはんらん……

民家三戸が土砂に埋まる

九日早朝の最大降雨期には、笹川がはんらんし、各所に堤防欠壊を生じ谷あい相ついで山くずれが発生した。中でも

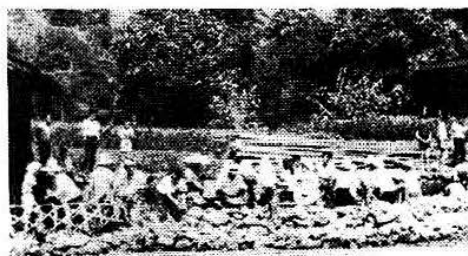
高さ二十メートル、幅十メートルにわたって山崩れが生じ、一挙に民家三戸を土砂に埋めてしまった。幸いいずれも家人たちは警戒態勢下にあったため、死者はなかったが、家が屋根まで埋まる程の激しさであった。(表題写真参照)

その他、笹川のはんらん六戸が半壊、四十戸が床下浸水に陥ったが各所で道路が欠壊したため、救援活動が思うに任せず、通信網の途絶で連絡も困難を極め、正に陸の孤島と化した一時もあったが、部落民総出で堤防欠壊箇所の応急補強作業など



に全力を注ぎ、被害の拡大を防止した。

なお、吉田知事も対策本部員と共に現地に到着、被害地を視察、予想外の被害に驚くと共に、地区民を激励慰労された。



写真上は、山崩れで押しつぶされた民家

右は田中橋付近において欠壊した堤防の応急補強作業に懸命な村民たち。

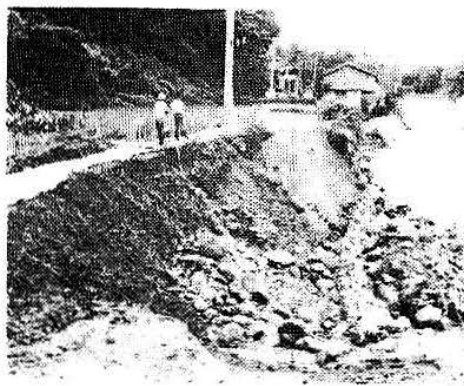
左は現地視察中の吉田知事の一行(雁蔵橋付近にて)



欠壊した道路と堤防

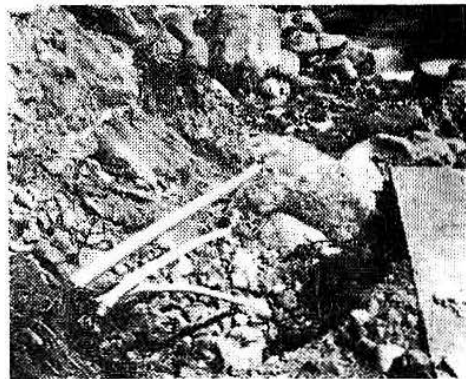
はんらんした笹川の激流は各所で堤防をけずり、道路をえぐりつつあった。

写真は笹川トンネル付近の道路欠壊のようす。



簡易水道の破損による断水

笹川発電所奥の水源地付近の土砂崩れによって簡易水道が破損し、全村断水の状態に陥った。



林道欠壊と数知れぬ倒木

谷川のはんらんと、土砂くずれによって、各地の林道が寸断され、倒木も数知れぬ状態で、調査が進むにつれて被害が増大していく現状であるが、中でも宮崎地内、林道上木谷線は、全線欠壊し、倒木の被害も甚大の様相である。

写真は全線欠壊の上木谷線林道と倒木のようす。



木流し川がはんらん

――舗道が激流と化する――

上横尾地内に発生した山崩れに伴って、宮本町内を流れる俗称マシマ

の川がいち早くはんらんし、宮本町西部を濁流に浸すと同時に、橋向町西端の木流川がはんらんし、みるまに橋向町通りは濁流と化した。(写真右下)

木流し川近辺の



城山トンネル入口の土砂くずれ

倒木と土砂、入口をふさぐ

国道八号線、城山トンネル西側入口右上方の斜面に土砂崩れが発生し、立木と大量の土砂が流出してトンネルの入口をふさぎ、国道八号線が完全にストップしてしまった。

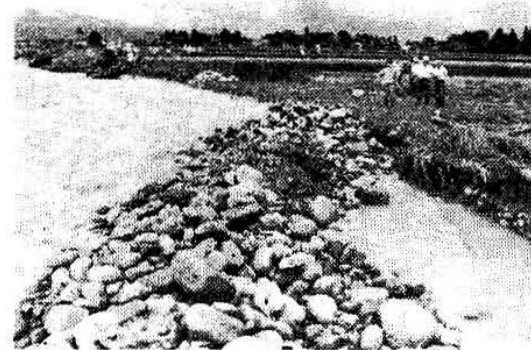
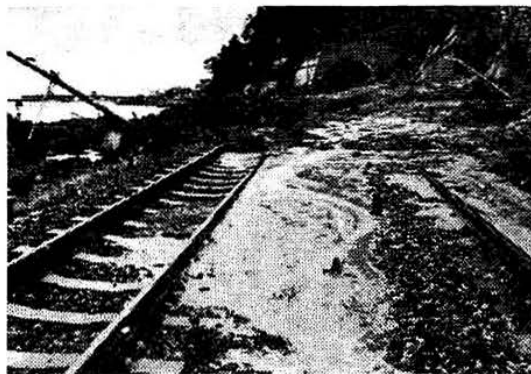


住宅は一時危険にひんしたが、全戸床下浸水(一部床上浸水)の被害だけに止まった。

集中豪雨被害状況調べ

朝日町(町、県関係共)

種別	数量	金額 単位千円	備考
負傷者	128		
住宅被害			
全壊	7	20,000	
半壊	7	17,500	
一部損壊	17	4,000	
床上浸水	168	5,790	
床下浸水	965	96,500	
非住宅	8	1,600	車庫倉庫その他
農田	71ha	44,700	
田舎	398ha	44,270	
農作物	1.2ha	600	
農畜水産	2.6ha	2,400	野産飼料
		260	畜舎
		1,100	海草
小計		94,930	
農地		71,650	
林地		35,510	
山林		720,000	
若林		83,100	
その他		1,090	
小計		911,350	
土木関係			
道路	40カ所	87,330	
橋梁	2	4,000	
堤防	48	197,155	
砂防	18	47,350	
小計		335,835	
商業		13,400	
工業		15,000	
建設		15,000	
小計		43,400	
交通		15,200	
船舶	2	4,800	
小計		150	
教育		11,370	
小計		15	
その他		400	
小計		250	
総計		32,185	
罹災世帯	1,163		
罹災人口	4,273		
被害総額		1,563,090	



北陸の動脈路線 完全にストップ

九日朝、北陸線、泊り越中宮崎間、宮崎トンネル西方三〇〇メートルの地点において山崩れが発生し、大量の立木と土砂が北陸線の鉄道を埋没し、さらに旧国道まで押し寄せ、これをすっきり埋め、北陸の動脈路線のすべてを完全にマヒ状態におとし入れた。

ダブルパンチの集中豪雨 舟川の堤防欠壊

翌十日は珍らしく晴れ上がり、罹堤防の欠壊により、水田流失埋没二災者たちをほっとさせたのも束の間、珍に及ぶ被害の報が入った。十一日朝からの豪雨は、黒部川下流、写真上は一瞬にして河原と化した水の欠壊や愛本橋流失の報を伝え、警田と左は欠壊箇所の応急処置戒態勢にあるうち、ついに舟川下流

水害見舞ごあいさつ

初秋の候、ますますご清栄のこととおよろこび申しあげます。

さて、去る八月九日未明当町を襲った未曾有の豪雨のため、山崩れ、河川のはらんによる民家の倒壊、浸水、田畑の流失、冠水など大きな被害をうけましたところ、公私ともにご多端のりから、さっそくお見舞にあずかり、一方ならぬお力添えをいただき、そのうえ多額の見舞金品を賜わり、まことにありがとうございます。

ご芳志にたいしまして心から厚くお礼申しあげます。

目下総力をあげて着々復旧作業に努めておりますが、今後とも格別のご指導、ご援助のほどよろしくお願い申しあげます。

失礼ながら、紙上をかりごあいさつ申しあげます。

昭和四十四年九月十日

朝日町長 中川 雅一

朝日町議会議長 上島 栄作

各位

ご芳名(順不同、敬称略)

富山県勤労者住宅生活共同組合、日東紡績泊工場長片桐豊、日本共産党富山県委員会、日本共産党中央委員会、富山県共同募金会々々長米沢甚吾、日本エタニツトバイアKK北陸出版

税務署だより

豪雨被災者に

国税の救済措置が

このたびの集中豪雨により被害を受けた方は、国税について、次のような救済措置がありますから、手続きなどでおわかりにならない時は、気軽に税務署におたずねください。

害を受けた人や、ことしの見込み額が二百万円をこえる人は(所得税法による雑損控除の適用)

損害額が十月三十一日現在でことしの見込み所得金額の二割をこえるときは、第二期分の予定納税額を減額することができま

す。
この場合、十一月十五日までに「予定納税減額申請書」を提出してください。

豪雨被災者に対する

町税の減免について

朝日町では、このたびの豪雨災害で被災された方々に対し、実情に応じて固定資産税と町民税の減免を行います。

これは、こんどの八月災害のために特に設けた、被災者に対する町税の減免要綱に基づいて行なうもので申請することによって減免されることになっています。

目下実情調査をしています。申請にあたっては、皆様とよく相談しながら、減免を適確にしたいとおもいます。

ご協力をお願いします。

(税務課)

①住宅や家財の半分以上に損害を受けた人で、ことしの見込み所得金額が二百万円以下である人は(災害減税法の適用)

被災した日から二カ月以内に「予定納税額の減額申請書」を提出してください。見込み所得金額の区分により、所得税がかからなくなったり、半分または四分の一に減額されます。

②住宅や家財の半分に満たない損

害を受けた人や、ことしの見込み額が二百万円をこえる人は(所得税法による雑損控除の適用)

損害額が十月三十一日現在でことしの見込み所得金額の二割をこえるときは、第二期分の予定納税額を減額することができま

す。
この場合、十一月十五日までに「予定納税減額申請書」を提出してください。

台風期を迎えて

防災心得

八月九日、十一日の集中豪雨により、朝日、入善町で予想もしない災害がありました。紙上をかりて被災者の方にお見舞いを申しあげます。

富山地方気象台の発表では、九月前半は八月に引き続き天候は不安定の見込み、後半は比較的晴れの日が多い台風は一回ないし二回ありそう。十月上旬、中旬天気はかわりやすい下旬は晴れの日が多くなる、と予報しています。

台風期を迎えて次のことがらについて気をつけましょう

- 屋根の瓦、トタン等のゆるみがないか調べておく。
- 洪水や高潮の警報、避難命令等がどういふ経路で伝達されるか確認しておく。
- 台風が襲ってきたとき
- 水害のおそれがあるとき
- 風が強いときは、窓は高い台の上に積み重ねる。
- たんすは引き出しを抜いて高い所におく。
- 押し入れの下段の物はできるだけ上段へ移す。
- 電気、ガス等火の元はかならず切っておく。
- 学用品の保存に注意すること。
- 長雨が続くとがけくずれの危険があるのを十分注意すること。
- 避難するとき
- 避難の指示はサイレン、半鐘、伝令、ラジオ放送等によって行なわれる。十分注意すること。
- 避難するときは、女子、子ども、老人、病弱者を早目に避難させる。
- 火の仕度、戸締まりを完全にしておく。
- 携帯品は非常用食糧(二食分位)、飲料水、医薬品、貴重品、認印、現金、着がえ衣料、夜間は懐中電灯等が必要である。また頭には帽子、頭巾、ヘルメットなど防具をつけ、家族一緒の時は、老人や子どもを先にして、できるだけ衣類でおおおうようにする。
- 責任者を中心に、家族または隣近所そろって避難するようにする。
- 台風下の行動について
- 外出する時は目的、行先、経路、帰宅予定時刻を知らせておく。
- これれそなうな扉のそばを通るときには下敷きにならないよう扉から離れて歩く。
- 川や池があるときは風上側の側によつて通ること。
- 地すべり、がけくずれに注意すること。
- 水びたしになった時、知らない道は一人歩きしないこと。
- 風で声がとどかないので、責任者はメガホン、拡声機を用意すること

(入善警察署)

健康な生活をめざす

盛りあがる 健康づくり運動 ——蛭谷、羽入、谷地区——

自分の健康は自分で守り、病気がない明るい町づくりを目的に、昭和四十四年度のモデル地区として指定した蛭谷、羽入、谷地区の健康づくり運動は、地区の健康づくり推進協議会が中心となった、積極的な取り組みによって、着々と初期の目的に向かって進んでいる。

五月二十六日と八月二十日に実施した健康診断、体力テストでは延べ三六三名が受検し、健康診断では、昨年

者の強い関心がかがわれた。また、この外に、健康づくり運動の一環として取りあげられている栄養教室では、「バランスのとれた栄養」を主題に、年十回の計画のうち、すでに四回を消化したが、常に七〇名以上の出席を得、講義を聞きながら、みな熱心にメモをとったり、講師の栄養実習を見学し、試食などしているが、今後自分たちが実際に手がける料理実習も計画されている。先の健康診断、体力テストについても、一月にあと一回実施の計画である。(民生課)

選挙とは

……… 知っておきたい選挙の知識 ……

主権在民とは

(1)「結婚にカネがかかりすぎる。町か果で、何か一つの基準を示してくださるといいが」という人が割に多い。(2)「花輪は虚礼的なものが多い。中には売名的なものも相当にある。東京の区会議員クラスでも、後援会関係に出さざるを得ない花輪が四百位から六百もということだ。だから花輪だけをとってても、年十五万円から三十万円もかかる勘定になる。議員の報酬の値上げの原因がここにもある。また不明朗な政治献金や収賄の温床の土壌の一つでもある。だからせめて、花輪の贈呈だけでも、法律で厳禁すべきだ」と、文化人たちが主張する。

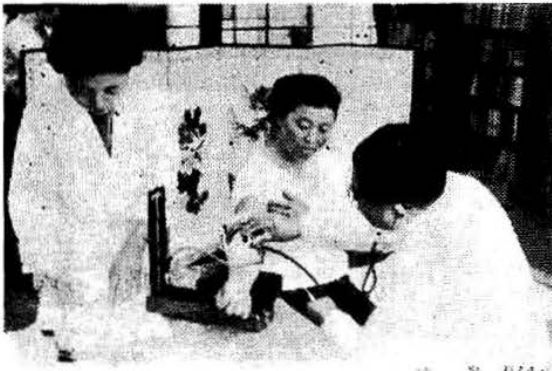
立派な政治家の育つ土壌は、政治を明るく正しくしたいと願う住民を数多くもつ地域以外にないのである。(以下次号)

(明正選挙推進協議会)

図書館だより

△新着図書▽

- | | | | |
|-------------------|----------|-----------|-------|
| 乱世京都(上) | 明田鉄男 | 日本の詩歌 | 飯田蛇笏 |
| 山下奉文 | 神修二 | 世界文学大系 | ダイケンス |
| 現代とはなにか | 羽仁五郎 | ゆらめき | 大田純子 |
| 天皇の踏絵 | 小川三郎 | 花と蝶 | 川内康範 |
| やぶ医者繁昌記 | 田村理一 | 黒くれ女 | 川口松太郎 |
| やさしい宇宙科学 | 宇宙旅行研究協会 | 闇を走れ | 黒岩重吾 |
| 原色日本の美術(宗達と元琳)小学館 | | 倒産心中 | 佐賀 啓 |
| 原色日本の美術(染織、漆工、金工) | | 妖怪 | 司馬遼太郎 |
| 国民の文学 | 小学館 | 妻と女の間(下) | 瀬戸内晴美 |
| 国民の文学 | 水上 勉 | 我が心は石にあらず | 高橋和己 |
| 国民の文学 | 今東 光 | 神通川 | 利根川裕 |
| 日本の詩歌 | 山村暮鳥 | 武田信玄 | 新田次郎 |
| | | 友禅川 | 新田次郎 |
| | | 姐御 | 花登 隆 |
| | | | 藤田五郎 |



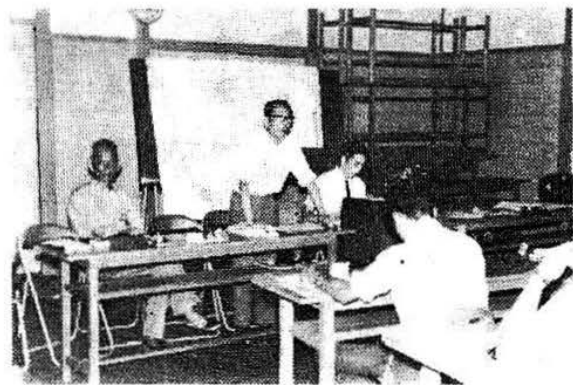
左—健康診断風景
左—踏み台昇降運動で心臓の持久力テスト

朝日町青年議会開会

議長に清水博君選出

朝日町連合青年団主催の第七回朝日町青年議会は、このほど、全校下の青年団員から選ばれた十六名の青年議員が集まり組織議を開いた。会場の朝日町中央公民館には、一般青年団員が傍聴する中で、小川朝日連青団長のあいさつのあと、町長代理加藤助役、議長代理扇谷副議長、大菅中央公民館長から、それぞれ祝いと励ましの言葉を受けた。ひき続き議事に移り、最年長議員の鍛冶信義君が仮議長となつて、議長選挙を単記無記名投票で行なった結果、議長に清水博君、副議長には議長の名指せんににより佃雅子さんが選ばれた。

このあと、つぎの三常任委員会に



分かれ、正副委員長(◎印委員長、◎印副委員長)を互選し、今後、各委員会ごとに数回の委員会を開き、活動を進めることにし、最後に加藤助役から施政方針演説を聞き、問題点を各委員会に付託して散会した。この青年議会は、民主制議会ルーを実践しながら、政治に関する関心を深めるとともに、地方行政のあり方について、青年自身の考え方を社会に打ち出し、住みよい町づくりに努めようという主旨のものである。各委員会等は次のとおり

学園ひろば

夏休み「赤川児童クラブ」の活動

長い夏休みの間、朝日町の各小中会では、ことしもそれぞれ活発な活動を展開してきたが、その中の一つ、赤川児童クラブ(八潮地区赤川)の活動を紹介してみよう。

こども盆踊り大会、ちようちんコンクール(八月十七日)

おとなと日を別にして、PTAの音頭で、こどもだけの盆踊り大会が実施されるのは、赤川地区独特のものと思われるが、それとともに、こども達が、思い思いの趣向をこらし

▽総務

◎鍛冶信義◎藤井恵子、水島了、島芳春

▽文教厚生

◎米丘和夫◎沢田英子、佃雅子、清水博、長津栄蔵、永井野啓子、水島証一、安達躍子

▽産業建設

◎室辰男◎竹内秀樹、永口正男、長井孝春

▽青年の城建設特別委員会

◎長津栄蔵、◎永井野啓子、水島証一、安達躍子

▽事務局

局長 古江博明
書記 森野稔

(朝日町連合青年団)

△写真上▽青年議会で、八月豪雨災害についての質問に答える加藤助役

た影絵ちようちんコンクールも大変人気があり、賞品も多く、こども達は前から工夫をこらして待ちこがれるように、赤川名物の一つになっている。

△写真上▽赤川児童クラブの園家山キャンプ

二泊三日のこのキャンプは、赤川地区のジュニアリーダーの指揮で、交通安全の標旗を先頭に、サイクリングで出発したが、準備一切がラズルの手で計画実施され、内容の充実した、部員待望の行事の一つであるとともに、リーダー養成の好機となっているようである。

このほか、宮崎海岸の水泳練習、写生会、ラジオ体操、宮そうじ、道路清掃、こども祭りみこし作り、夏休み作品展等、部落の理解ある応援

昭和四十四年度朝日町連合婦人会総会は、八月一日、泊小学校において開催された。

冒頭、会長から、このほど広島で開かれた全国環境衛生大会で、朝日町連合婦人会が、住民検診による厚生大臣賞を受けたことが報告され、会員協力一致の賜物とのあいさつがあり、今後とも、町民健康増進のため

婦人会活動



朝日町連合
婦人会総会

め一層がんばろうと誓い合った。

次いで、「言葉と人間形成」と題する、松田順吉富大教授の講演があり、

○言葉は生きている。

○人間は言葉をつくり、言葉が人間を作る。

○家庭は言葉の港である。

両親の美しい言葉が大切である等、ユーモアをまじえた話に、暑さを忘れて熱心にメモする会員の姿も見られた。

引き続き、全員合唱による歌唱指導を行ない、最後に、次の申し合わせ事項を決議して、総会を終了した

一、会服を着用しましょう。

一、時間厳行につとめましょう。

(朝日町連合婦人会)

一体協だより

▽第十六回町民排球大会

(八月三日 宮崎小学校)

(男) ①泊三区 ②大家庄

▽第十二回町民水泳大会

兼朝日町小・中学校水泳記録会

豪雨災害のため中止

▽第十五回町民野球大会

(八月十七日 泊中、小丸山)

①泊一区 ②泊二区

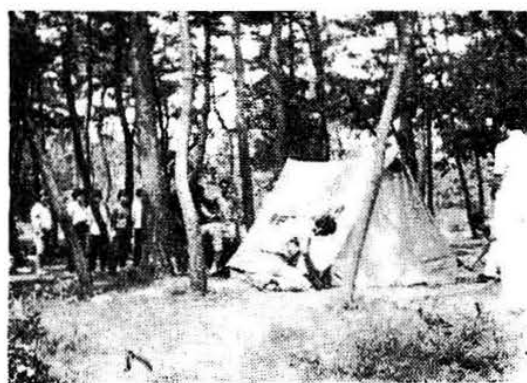
▽第十四回町民庭球大会

期日 九月二十三日 午前九時

会場 日東紡グラウンド

自由参加(オープン)ですから多数参加ください。

(朝日町体育協会)



農事教室



うるおいのある

生活設計を

農家の生活態度

経済の成長につれて、農村社会も激しく変化し、兼業農家率全国第一位、そして稲作地帯の富山県は、いくつかの問題をもっています。

男の人も女の人も、年間の労働時間の増大と合わせて、農業の主体性が主婦にうつりつつある時、その一つは、婦人の労働による健康の問題です。一般に農夫症や疲労症状が多

くみられ、このような健康状態の原因は、労働状況だけではなく、毎日の生活のあり方にも原因がひそんでいるといわれます。経済的には恵まれてきたが、食卓にはインスタント食品が並び、農村生活の良さをしみにみと味わえる、新鮮な野菜が不足し、こどもとのふれ合いの時間も極端に少ない、などというような生活の実状にあるといわれます。

先日、朝日町健康づくり運動の一環として行なわれた、実践地域での体力テスト、保健指導に参加しました。体力テストを行ない、医師の診断を終った方々と保健指導の面で話合っていますと、ひとりひとりが

真剣に自分の生活を反省し、話し合いの中で、対策をみつけて帰って行かれるのですが、この人達の中で、どの程度、あすからの生活にとり入れられ、改善して行かれるかと考えるのです。

生活の改善とは、主婦の個々の生活技術を高めることではなく、技術や知識を通して生活を変化させるものでなければなりません。従って、聞いた、理解した、だけでは、自ら実行し、生活の中に変化をかなければなんにもならないもののです。

地区においては、善改実行グループもあり、この「あさひ」にも紹介され、波及も計られるようになってきていますが、ひとりひとり、いかにか直剣に考え、努力すべきです。住宅もよく、カラーテレビも入っているが、夫婦が別居して生活しなければならぬようでは、真の生活とは云えませんが、生活設計をたてて

身体障害者を

雇ってください

最近、各商店、工場の現場では、求人難、労働力不足の声が聞かれるようになってきました。

今や、ひとりの就職難の時期と異なり、身体に支障のある人も、仕事をしようという熱意があれば、その残存労働能力を活かしてりっぱな職業人になれる好期です。

障害の程度が重くて、職について、すぐに一般の人と同様に仕事を続け難い人に対しては、障害者を現場訓練するため、手当が支給される

元気で働くことのできる体力づくりや早期疲労回復の手段をはかりながら、明るく楽しい、なごやかな家庭生活を送れるように改善方法を計画し、生活環境をよくし、話し合いのもとに解決をはかることが生活の改善だと言えます。

地区の方々の中には、個人で解決するよりもグループで、グループからさらに部落全体へと、今はすでに共同で生活を改善して行く方向に進んでいます。わが家の計画のもとに、きょうよりはあすへと、生活の向上をめざして、無理のない生産と生活の調和をはかりながら、地味な努力の積み重ねが本場で、その態度こそが大切です。

(入善農業改良普及所朝日支所)

自衛隊各学生募集

防衛庁では、九月一日から防衛大学校生、航空学生、看護学生(女子)を募集しています。

ことになっています。

手当の額は、障害者を雇い入れようとする事業主に月額六、四八〇円、障害者に約一五、〇〇〇円です。期間は必ずしも六カ月間。

また、東京、大阪をはじめ全国に十数カ所の身体障害者職業訓練所があり、時計、ラジオ、テレビ修理、縫製、謄写印刷、理容、製図工、刻印工等の仕事を教授しています。

魚津公共職業安定所では、九月中旬を雇用促進月間として運動を実施しており、就職のご相談にご利用ください。

(魚津公共職業安定所)

▼応募資格

年令(四十五年四月一日現在)
・防衛大学生……二十才未満
・航空学生……二十才未満
・看護学生……二十才未満
学力
高校卒(采年三月卒業予定含む)
またはこれと同等以上の学力を有する者。

「自衛隊生徒」

応募資格は四十五年四月一日現在十七才未満で、中学卒(采年三月卒予定含む)の者
その他、「婦人自衛官」(一般、看護)、「衛生費学生」も募集しています。

▼受付締切

十月三十一日(防衛大学生は十一月五日)です。

問い合わせは各学校指導部、自衛隊富山地方連絡部、または役場総務課へ連絡してください。(総務課)

朝日町人事異動

昭和四十四年八月二十五日付
(課長)

建設課長 町長室長 水野儀一

町長室長事務取扱 助役 加藤俊之
(係長)

町長室文書 総務課 住吉 寛
係長兼務 庶務係長

相談所の開設

人権法律相談

期日 九月十六日(火)

午後一時～四時

場所 朝日町職工会館

(総務課)

▽心身障害児相談会

日時 九月十六日(火) 午前中
場所 朝日町職工会館

(民生課)

新人権擁護委員に

小沢 浩氏

このほど任期満了となった人権擁護委員小沢浩氏の後任として、小沢浩氏(朝日町泊三三七二)が、八月十五日付をもって法務大臣から委嘱されました。

(総務課)

郵便局だより

通常貯金の

利子通知をしています

郵政省は、郵便貯金のお客さまサビスの一環として、通常貯金の利子通知します。今年は七月から十一月までの間に、全国二十八の地方貯金局から順次通知します。全体の三割程度です。この通知には、貯金の現在高と昭和四十四年三月までの利子額が記入してあります。

この通知書が届いたら、ついでのとくに、近くの郵便局に貯金通帳と通知書を出せば、その場ですぐ、通帳に利子額を記入いたします。

(泊郵便局)

先月の交通事故

(朝日町管内)

件数 七件
死亡者 〇人
負傷者 九人

編集兼発行 朝日町役場

印刷所 向越印刷

送料 六円

定価 六円

郵便番号 九三九一〇七